

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年5月22日 午後7時～8時40分
会 場 駒林西自治会館
天 気 雨

参加者 27人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆3.11の東日本大震災時には、線路を挟み東側地域については停電せずに済んだが西側地域については停電してしまい、知人からも非常に不安だったと聞いている。震災時における停電対策についての今後はどうなっているのか。ガス、水道も大切だが電気が一番大切だと思う。
- ☆震災時にライフラインの遮断は想定される場所であり、実際、3.11の際には10,500世帯が停電となってしまった。東電も災害対策を考えているようだが、市としてのライフライン対策としては、水道管について耐震性のものに替えている。
- ◆太陽光発電を役立てる方法はないのか。
- ☆防犯灯の中にソーラーシステムを組み込むのは有効な手段と考える。
- ◆停電により信号機の機能が停止してしまうことが非常に危険と考えるが、信号機に太陽光を取り込めないか。
- ☆非常に良い提案だと思うので、参考にさせていただきたい。
- ◆この地域は津波の被害は無いので、この地域特性に沿った震災対策の内容が必要である。その内容はどんなものか。過去の実績等からの分析内容はいかがか。阪神淡路大震災時には、倒壊したブロック塀の下敷きになり死亡した例が多かった。この地域でもそれは十分に想定できるが、ブロック塀を強化するための補助など無い。考えても良いのではないか。特に通学路など優先順位を付けて対策をとる必要がある。
- ☆東日本大震災では阪神淡路大震災時の揺れの周期と違い、津波の被害が多かったように、その都度地震の状況が異なる。国はこのような状況の中で防災計画の見直しを図っているが、地震の発生は今この時に、又は明日起こるかもしれない状況であるため、国・県の計画策定を待つてはられない状況である。市では今現在、これまでの実績を踏まえ、想定出来得るすべての状況を考慮し計画を作ろうと考えている。また、ブロック塀に関する補助を一件ごとにするのは非常に難しい中で、被害を無くしていく方策を考えなければならない。被災後の処理について、さまざまな場面を想定しながら対応していきたい。自助・共助・公助と言われている中、公助はその中でも一割程度の役割と言われている。

るが、その裏には皆さん一人ひとりの力による地域力無くしては語れないものがある。地域の力をしっかりと付けていくことが求められているので、市民の皆さんの防災意識を高めていくことが、この状況においては一番大切なことである。

- ◆ブロック塀の補助について難しいということであれば、それぞれの避難場所までの経路の中で、危険箇所を示すマップなどを作成してもらえないか。安心して通れる避難経路を示してもらえると安心できる。
- ◆ブロック塀の危険箇所を市で調査し、示してもらえないか。
- ☆安全な避難経路について検討してみたい。しかし、震災はいつ何時起こるか分からない。いつも自宅から避難場所に行くとは限らないので、まずは、どんな状況においても身近で安全な場所に身を移してもらいたい。壊れて倒れてくるものが無いところに避難してもらいたい。安全エリアとして市からお示しする事も必要であるが、近くの公園でも畑でも危険なものが無い限り、自らの命を守る手段としてそのような場所があるかどうかについて、認識をもっといただきたい。また、行政として安全経路マップを作成するにしても、地域の方からの情報が何より大切で重要な情報であるため、是非、情報提供にご協力をお願いしたい。7月の30、31日で小学校単位の図上訓練を実施する予定なので、その機会も多いに活用し、地域の実情をご存じの皆さんと一緒に様々な検証作業など行っていきたい。
- ◆防災無線について、聞き取りづらい。特に女性の声ならばまだ少しは聞こえるが、男性の声だと何を言ってるのかまったく分からない。
- ☆平日の対応と、休日の対応が違うためにご迷惑をおかけしています。今後は、ハッキリとした発音で且つ短いセンテンスで話すよう改善していきたい。防災無線の使い方も、さまざまな問題があり慎重に検討しなければならないが、整備も急ぎながら改善に向かって取り組んでいきたい。
- ◆竜巻注意報発令と言われても何をどうしていいのか分からない。有効な対処方法とか行動を具体的に示してもらいたい。
- ☆竜巻発生確度というものが気象庁から発表されているが、確度2（発生確率6%～10%）になったら防災無線を流す予定である。6月の広報で詳しい竜巻情報をお知らせしていく。さきほどご指摘のブロック塀については、現行の防災計画にも示されており、まったくご指摘のとおりです。しかしながら、ここには具体的な施策が記述されていないので、今取り組んでいる見直しの中できちんと盛り込んでいきたい。
- ◆昼夜を問わずいつ発生するか分からない地震であるが、避難場所を示す各学校等の看板が非常に見えにくいので、改善をお願いしたい。特に駒西小の看板は古く、新しい住居表示に対応していない。それと、倉庫自体の雨漏りや鍵が開かないなどの不具合があったりする。倉庫の外に何が入っているのか表示する必要もあるのではないか。

☆12月2日（日）の全市的な防災訓練の際には、是非、地域の方々にも防災倉庫の中に入れてもらい、備蓄品等の確認をしていただきたい。

◆平成15年あたりはかなり苦勞して地域の防災マップを作成している。井戸の確認等も行った。それを是非活用してもらいたい。

☆地域の皆さんが作成した貴重な資料を活用させていただき、それを基本に肉付けしながら見直しを図っていききたい。

◆昭和56年の新耐震基準前に建築された建物は、ふじみ野市の中でどれぐらいの割合か。

☆具体的な数値は把握しきれない部分があるが、恐らく3分の1以上あるのではないか。耐震に関する建物簡易診断は、建設図面を持って市の建築課に来ていただければ可能である。

◆上福岡駅すぐそばの踏切は、相変わらず開かずの踏み切り状態であるが、前にあった東西の連絡道路計画は無くなってしまったのか。

☆2年半前に私が就任した時の状況として、何も手付かずの状態であったので、時間的な問題等から計画を廃止するしか無かった。

◆このふじみ野市から自分の家に帰れない人はどれぐらいいるのか。

☆3.11の時は、西公民館や西口のサービスセンター等で250人の方々に対応を行った。潜在的にはもう少しいらっしゃるのかもしれない。

◆建設業者等との協力体制はどうなっているのか。

☆スーパーや建設業者とも協力協定を結んでいる。甲斐市、飯田市、日光市の3自治体と既に災害協定を締結しているが、このたび安中市とも新たに協定を結んだ。

◆マルチマンホールの設置はあるのか。

☆公園にはいくつか設置している。また、災害時には50人に1人の割合でトイレの用意をしている。

◆簡易トイレの組み立てをやってみたが、階段が付いていて高齢者には使いづらいものだった。

☆階段が付いていない簡易トイレの方が数としては多いので、今度、お見せしたい。

◆防災に対する意識を市民の中に高めていくことが非常に大切である。これに対するPR活動を市として推進すべきであるし、併せて日頃からの備えに対するPR活動も強化すべきである。

☆一人一人の意識の高揚こそが防災力強化のポイントとなる。地域の会合等で集まる際には、さまざまな場所で働きかけを行って欲しい。市としても一生懸命やらせてもらうので一緒に頑張っていきたい。市としては可能な限り皆さんの要望に応えられるよう努力するが、財政力の面だけでなく、皆さんの地域力にはかなわない部分がある。いざという時の地域力。この地域からは一人の犠牲者も出さないという意気込みが非常に重要になってくると思います。皆さんの

力無くして災害に強いまちづくりは語れません。

◆市役所に洋式便所が少なすぎるので何とかして欲しい。

☆耐震補強などの庁舎整備の際に、改善を図っていきます。

※避難場所を示す看板について、現時点では新住居表示に対応済みであるが、備蓄品の内容を倉庫の外側に表示することについては、盗難の恐れなどから難しい状況である。